

## 1 経営的特徴と導入方法

シクラメンは、わが国における最も重要な鉢物で、年間出荷量は、2,000万鉢近くになっており（平成10年実績）、売上金額とともに王座を占めている。

本県では、夏季冷涼な気候を生かし、草姿、花容の揃った高品質のものを早期から出荷できる。

全国の生産動向は、贈答用需要の低迷に伴い、以前の6号鉢主体から5号鉢主体に移り、最近ではより小鉢の4号以下の比率が増加しつつある。品種は、パステル系、F1、ミニ系が出揃った数年前より安定化傾向にある。

経営、技術面では、昭和60年頃より伸び始めた底面給水栽培が増加し、かん水の大幅な省力化となり、規模拡大が可能となった。しかし、近年長引く経済不況の影響でシクラメンの単価は低迷が続いており、小規模経営では厳しい状況となっている。今後一層の規模拡大を進め、コスト低減を図るか、狙いとする販売単価を設定し、それに対して経営的に見合う栽培方法を導入するなどして、特徴ある経営を確立していく必要がある。

表1 10a当たり作業別、旬別所要労働時間（単位：時間）

### ① 作業別労働時間

項目	時間	項目	時間
播種	16.0	秋冬の管理	145.0
発芽の管理	15.0	葉ぐみ・枯葉・病葉とり	960.0
第1回目の移植	28.0	病虫害防除	112.0
第2回目の移植	68.0	出荷	42.0
第3回目の移植	116.0		
夏期の栽培管理	218.0		
第4回目の移植	116.0	合計	1836.0

(注)

1. 青森県主要作目の技術・経営目標（1994.3）
2. 出荷鉢数8,000鉢/10a

### ② 旬別労働時間

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
時間	5.0	12.0	23.0	19.0	7.0				5.0	68.0	5.0		11.0	17.0	11.0	21.0	137	21.0

7月			8月			9月			10月			11月			12月			合計
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
26.0	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0	41.0	262	245	233	212	72.0	78.0	75.0	32.0	25.0	17.0	1,836

## 2 生理生態的特性と適応性

シクラメンは、カガリビバナともよばれ、地中海沿岸の山地が原産のサクラソウ科の植物である。18世紀にイギリスへ渡り、のち、ドイツに渡って品種改良が重ねられ、今日の園芸種は花形やサイズ、花色で多くの系統に分化している。暑さを嫌い、年中温和な気候を好むが、比較的耐寒性がある。営利生産ではほとんど実生栽培で、一部組織培養苗の導入もみられる。

原産地は一般に夏は高温低湿であるが、この時期は葉を落として球根の状態では休眠する。秋からの生育期間は気温が15～20℃、冬期でも平均気温が約10℃と温暖で陽光も強い。原産地は年間の降水量が少なく、多湿の日本では病害の防除が重要となる。本県においては梅雨時期の低温寡照と多湿、夏場の高温多湿と10月以降の寡日照が栽培管理上、不利な条件となる。そのため、高度な管理技術と、それなりの設備が必要となる。

### (1) 温度

全般の生育適温は15～20℃で、30℃を超えると光合成速度が極端に低下し生育が遅延するといわれている。生育適温は生育ステージにより異なり、幼苗期（葉数10枚程度）は平均気温18℃前後、成苗期（葉数30枚程度）は22℃前後、花柄伸長期から開花期にかけては16～17℃が適温（中山、1968）となる。ただし近年は花色のみならず、耐暑性についても改良されており、高温期の生育については限界温度が上昇している。

### (2) 日照

シクラメンは日照を好む植物であるが、生育ステージにより適光量条件が変化する。光合成の面からみると、幼苗期は気温20℃、照度1.5万ルクスで最大となり、4万ルクスまでは増加しても変わりはないといわれている。成苗期には15～20℃の適温域で3～5万ルクスが適光量であるが、生育が進むと6.5万ルクスでも飽和せず高くなる。このことから、シクラメンには遮光が必要ないことになるが、高温域では3万ルクスで低下度が小さく（神奈川園試）なるといわれ、実際の栽培において夏場の晴天時には日照を30～40%制限する必要がある。

### 3 作型と品種

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーシカム系												
パステル系												
F1 シクラメン												
ミニシクラメン												

※作型は5号鉢仕立て（ミニシクラメンは3号鉢）を標準とした。

#### (1) 作型

本県にみられるシクラメンの作型は、12月播種の翌年11月からの出荷が標準であるが、品種、系統により播種期等に若干の違いがみられる。(表2)

表2 播種期がシクラメンの開花状況に及ぼす影響

(平成10年フラワーセあおもり)

品 種	播種日 (月/日)	株張り (cm)	株高 (cm)	葉数 (枚)	葉幅 (cm)	開花数 (個)	花蕾数 (個)	評価	備 考
ハーバーク	9/10 11/21 12/12	38.4 35.2 34.4	14.2 14.4 15.9	42.4 35.6 44.6	9.1 9.0 8.4	10.0 6.4 8.4	13.4 10.8 15.0	4 3 2~3	開花にばらつき有り 未開花株有り
シェラティープレット	9/10 11/21 12/12	38.3 33.7 34.7	14.7 13.0 15.1	56.2 49.4 53.8	8.0 7.6 7.4	16.0 9.6 12.4	18.6 14.0 15.8	3~4 3~4 4	出荷適期を過ぎている 出荷適期を過ぎている
リスト	9/10 11/21 12/12	41.1 38.1 36.0	16.1 13.9 14.7	75.8 55.6 63.8	7.6 8.0 7.5	20.6 17.6 10.2	18.0 17.6 16.4	3~4 4 5	出荷適期を過ぎている
シトラウス	9/10 11/21 12/12	35.7 37.1 34.6	15.8 16.7 14.3	61.4 51.6 48.6	7.5 8.2 7.7	11.0 9.6 8.6	18.8 18.8 11.6	5 4 3~4	やや徒長気味 開花遅れ気味
ピンクシャワー	9/10 11/21 12/12	- 36.7 36.5	- 15.4 15.7	- 51.8 71.8	- 8.3 8.0	- 12.2 12.2	- 14.8 17.4	- 4 5	発芽後株枯死
ユカピアス	9/10 11/21 12/12	36.2 33.8 36.5	15.3 13.2 16.1	59.2 59.0 74.4	7.4 7.3 7.3	15.0 6.6 15.6	18.4 10.0 14.6	3~4 3~4 5	姿がやや乱れている 病気により枯死蕾多数
パープルビクトリア	9/10 11/21 12/12	38.1 37.3 36.7	15.1 14.9 14.2	55.6 54.8 60.8	8.1 8.6 8.0	6.4 10.8 18.0	9.0 14.0 13.2	3 4~5 5	発蕾期の遅れ(管理上)
ピュアホワイト	9/10 11/21 12/12	40.5 36.4 37.6	15.6 14.1 16.1	51.2 51.2 54.4	8.2 8.5 7.9	8.2 8.6 8.6	10.4 11.6 16.2	4 4 4	

注) ①平成10年12月15日調査

②評価は達観で草姿、花と葉のバランス等から判断した。 1:不可、2:可、3:良、4:優、5:秀

## (2) 品種

品種は花色、花形、花の大きさなどから多岐にわたるが、大別すると①パーシカム（普通）系、②パステル系、③F1シクラメン、④ミニシクラメンの4系統に分かれる。代表的な品種は表3に示した。これは、あくまでも系統における分類であるが、播種からの到花日数等、性質上で分類するとこの限りではない。花色的には赤系、ピンク系が多く作られており、白色や、覆輪、絞り、花色変化花、黄花等も作られている。系統的にはパステル系とF1シクラメンの中大輪種が主流に作付けされており、ミニシクラメンがこれに次ぐ。パーシカム種は大鉢需要の落ち込みから、変わった花色のものを除いて生産が減少している。

表3 系統別品種

パーシカム（普通）系	パステル系	F1シクラメン	ミニシクラメン
バーバーク（緋赤色） ピュアホワイト（白色） ビクトリア（白色、紫赤色 目・覆輪目、フリンジ咲き） シルバーエッジ（濃赤色、 白覆輪） ハーレクティーン（桃色、赤 ストライプ） ジャズブラッド（濃赤色） 信濃クイーン（淡桃～濃桃、 フリンジ咲き） かぐや姫（黄花）	シューベルト（藤桃色、濃 色目） シェトラウス（緋赤色） ベートーベン（濃紫赤色） ブラームス（紫赤色、濃色） リスト（白色、紫赤色目） ボロディン（白色） ディープレッド（濃暗赤色） レハール（藤桃色、弁先淡 桃色） ピアス（白色からピンクに 変化）	・コンサートシリーズ エスメラルダ（サーモンレ ッド） オフェリア（ライトピンク） オベロン（淡ラベンダーピ ンク） シルビア（紫赤色） ノーマ（白色、紫赤色目） フィンランドディア（白色） ボレロ（ラベンダーピンク） カルソ（緋赤色）  ・シェイラシリーズ ディープレッド（濃暗赤色） スカーレット（緋赤色） ホワイト（白色） ローズ（藤桃色）	・ミラクルシリーズ(F1) ディープローズ（濃藤桃 色） スカーレット（緋赤色） ホワイトウィズアイ （白色、藤桃色目）  ・デキシーシリーズ(F1) スカーレット（緋赤色） ワインレッド（深紅色） サーモンウィズアイ （淡桃色、濃色目）  ・ドレッシーシリーズ (F1) スカーレット（緋赤色） ローズ（藤桃色） ホワイトウィズアイ （白色、藤桃色目）

## 4 栽培

### (1) 育苗

播種から栽培の場合と、購入苗で栽培する2通りがある。ここでは播種する場合の方法について述べる。

## ア 播種期

品種、系統、仕上げ鉢のサイズにより播種を行う時期が異なる。大きく分けるとパーシカム系では9～10月播種、パステル系が11～12月、F1シクラメンが12～1月、ミニシクラメンが1～3月である。

発芽の適温は20℃前後で、高温では発芽揃いが悪く、低温では時間がかかるが揃いはよい。ただし13℃以下の低温で管理すると種子が休眠するおそれがある。使用する種子は赤褐色でアメ色のつやをしており、3～4 mmの大型で充実したものがよい。は種量は、将来予定する数の2～3倍は必要である。

## イ 予措

播種にあたって、一晩吸水させ、十分膨らんだものをまく。

## ウ 播種用土

栽培後期の用土に比べ軽く、排水の良いこと、また清潔であることが要求される。このため市販の育苗用土を用いるのが簡便である。

## エ 播種方法

箱育苗とプラグ育苗があるが、移植時の植え傷みを考慮すると、プラグ育苗が良い。サイズは200穴ないしは288穴を用いる。1粒ずつの播種が標準で、覆土の厚さが5 mm程度となるようにする。覆土はくんとんを用いると1回目の鉢上げ時に球根を露出させやすい。播種後は目の細かいジョウロで十分かん水を行う。底面から吸水させても良い。嫌光性のため、新聞紙やラブリットで覆うなどの処置をする。

## オ 発芽後の管理

発芽までには長い日数を要し、30～40日である。このため発芽までに用土を乾かさないうち注意をする。5割ほど発芽が揃ったら光線にならして、第1葉が1 cm大になるようにするが、時期が遅れるとモヤシ状になるため注意をする。発芽後は徐々に温度を下げるが、後の生育を考慮すると、13℃以下にはしない方がよい。

この時期は生育が最も緩慢な時期で、第1回目の鉢上げに適した大きさ、すなわち本葉3枚程度になるまで3～4か月を要する。この時期に栽培管理に失敗をするとその後の生育に大きな影響を及ぼす。完全な培土を用いることと、薄目の液肥を週1回施し、良い苗を育てる。

## (2) 鉢上げ準備

### ア 培養土の作成

鉢上げ用土の基本となる「土」であるが、土の種類や採取された場所により土質が異なる。シクラメンは栽培期間が長いため、水をかけるたびに溶けて固まっていくような「土」では根の発達を望めず栽培を失敗する。そこで黒ボク土や、粘質の強い赤土等は等量に近い堆肥を混入し、切り返しながら1年以上堆積させたものを用いるようにする。これは崩れやすい土質に対し、団粒化を促すためのものである。「赤

玉土」や「園芸粒状培土」のように粒状加工され、崩れにくくなったものを除いては、上記のように調整した方が無難である。

りん酸吸収係数の高い土を用いる場合は、この「培養土」を作成する時点で、ようりん等の改良資材を混入しておく。またpHも6.0程度に調整をしておく。なお、混合した培養土には適度な湿り気を与えておかなければ、お互いになじまない。

#### イ 鉢上げ用土の調整

鉢上げ用土については、水はけ、水保ちが良く、播種用土同様病害虫のおそれのない清潔なものが望ましい。用土の混合比率については、かん水方法などの管理面から異なってくる。現在はピートモスを多用した人工培土が主流となっているが、緩衝能力を高めるため若干は培養土を混入した方がよい。例としては以下の通りであるが、前にも述べたように管理条件によってやや異なってくる。自分の栽培にあった用土を見つけることが重要である。なおpHは6.0前後に調整をする。用土の仕上がりは、やや粗めの方が根の発育にも良い。

##### (ア) 培養土主体の場合

培養土：腐葉土：十和田砂（パーライトでも可）＝4：4：2、これに全体量の1割ほどくんたんを混入すると良い。

##### (イ) 人工培土主体の場合

ピートモス：十和田砂（パーライトでも可）：培養土（赤土でも可）＝6：2：2、これに全体量の約1割のくんたんを混入すると良い。またピートモスを1割減らして、その分、パーミキュライトを混用しても良い。底面吸水栽培の場合は、こちらの方が毛管現象が働きやすいため管理しやすい。

#### (3) 施肥

理想的には、生育ステージに応じ、液肥による施肥であるが、簡便な方法は、緩行性肥料を用いることである。用土1リットル当たりの施肥量は、現物換算でロング100日タイプ3g、マグアンプK4gである。これをあらかじめ用土に混入しておく、鉢上げの都度追肥をすることになる。液肥で栽培する場合は、窒素濃度が30～70ppm程度のを週に1回程度施す。

#### (4) 鉢上げ

発芽後、本葉が2～3枚程度になったら鉢上げを行う（図1、2）。このときから球根を半分程度地表面に出して植え付ける。浅植えは球根がぐらつくため、後の生育が悪くなる。深植えにした場合は、新芽が腐敗したり、病気が発生しやすくなるため避ける。なお仕上げの鉢サイズにより、鉢上げ回数が異なる。目安は表4に示した。



図1 鉢上げ前の苗の状況

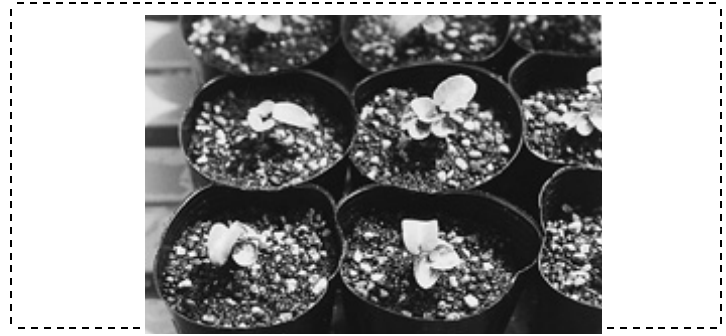


図2 鉢上げ直後の状況（3号ポリポット）

表4 仕上げ（出荷）鉢と鉢上げ回数

仕上げ（出荷）鉢サイズ	鉢上げ（鉢増し）回数および鉢（ポット）サイズ
7号鉢（大鉢）	4回：2.5号 → 3.5（4）号 → 5号 → 7号 3回：3号 → 5号 → 7号
5号鉢（標準）	2回：3号 → 5号
4～4.5号鉢（ミニ含む）	2回：2.5（3）号 → 4（4.5）号
3～3.5号鉢（ミニ系）	1回：3（3.5）号

#### (5) 鉢上げ後の管理

##### ア かん水

定植直後は鉢内の用土を落ち着かせるため、たっぷりとかん水する。その後は鉢土の表面が白っぽく乾きはじめたら、次のかん水を行う。過湿は葉柄の徒長や、根腐れの原因となりやすいため、十分に気をつける。また、乾燥は葉の縮れや、生育不良の原因となるため、避けなければならない。

手かん水の場合、夏場の高温乾燥時を除いては葉や新芽に水がかからないようにし、鉢土部分だけにする。これは灰色かび病などの病気を予防するためである。なお、夏場の高温乾燥時に頭上かん水することは、株を冷却する効果がみられ、生育促進効果があるといわれているが、この場合は、午前中にかん水をし、午後には葉や新芽にかかった水が乾いているようにする。雨天の時や、湿度の高いときには行わないようにする。生育後半には徒長を防止するため、水加減に注意をする。

##### イ 温度管理

生育適温や病気予防の観点から、通風を図り、高温にならないようにする。夏場の晴天時のように施設内が高温になる場合は、日中30～40%程度の遮光を行い温度上昇を防ぐ努力をする。秋以降は最低温度10℃を目標にするが、生育が遅れ気味の場合は15～18℃まで温度を上げる。

##### ウ 葉組み

株の姿を整え、株中央部に光を当て葉数の増加と蕾の発育を促すため、葉組みを行う。この作業は仕上げ鉢定植後、株が充実してきた頃から行うが、目安は9月からとなる。要領は、中心部の葉を外側に引っ張り出すようにして行う（図3、4）。出荷までに3～4回この作業を行うが、葉組み作業の遅れは葉柄が伸び、株に締まりがなくなるため、適期に行う。最近はこの作業を簡便化するため、「葉組み器」（図5）が開発されており、作業時間の著しい低減が期待される。

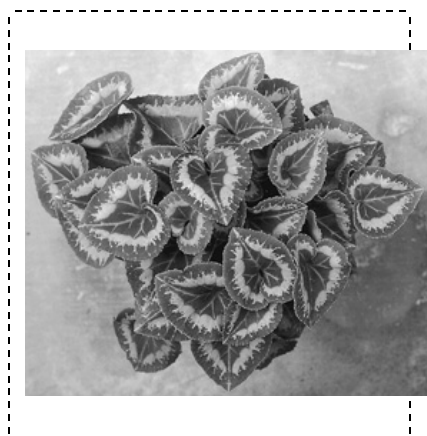


図3 葉組み前

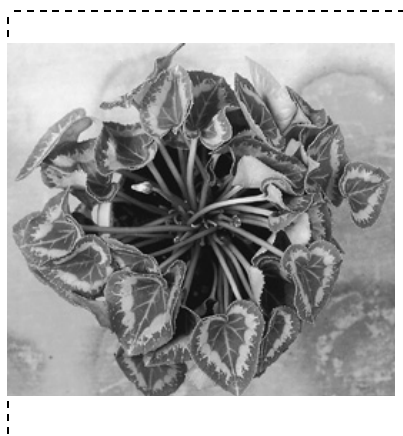


図4 葉組み後



図5 葉組み器

## 5 主要病害虫とその防除対策

### (1) 病 害

#### ア 灰色かび病

葉、葉柄、花梗、花卉に発生する。葉では葉縁あるいは株内部の老化葉が侵されやすく、侵されると褐変して腐敗し、灰色、ビロード状のかびが生える。花でははじめ水浸状の斑点を生じ、やがて褐変して腐敗する。

発生の特徴と防除法は共通事項参照

#### イ 軟腐病

はじめ地際近くの葉柄や花梗に水浸状病斑が生じ、次第に軟化腐敗する。さらに株全体に腐敗が及び枯死することもある。病原菌は短桿状の細菌（バクテリア）であり、高温多湿な条件で発生しやすい。

ハウスの通風や水やりに注意し、できるだけ多湿にならないよう管理すると共に発生期には予防的に薬剤散布を行う。

#### ウ 萎凋病

一部の葉が黄変してしおれる。やがて多くの葉が同様にして黄化、萎凋して株が枯死する。塊茎を横に切断してみると導管の褐変がリング状に認められる。土壌伝染性の病害で汚染された培土により発生する



ことが多い。防除として培土や資材は無病のものを用いるほか、発病株は直ちに抜き取り土ごと処分する。

また、発病株を抜き取った後は、鉢ごとに薬剤灌注処理を定期的に行う。

## (2) 虫 害

### ア アザミウマ類

花をミカンキイロアザミウマが加害し、花柄が曲がったり花弁が奇形になる。赤花では花弁の色抜けが目立ち、淡色花では褐色のかすり状になる。

発生の特徴と防除方法は、共通事項を参照する。

### イ アブラムシ類

株元にワタアブラムシ等が寄生し、多発すると葉が巻いたり、株が矮化する。

発生の特徴と防除方法は、共通事項を参照する。

### ウ ホコリダニ類

花弁とがくの間等の隙間に群棲し、多発すると花が奇形になり、色抜けも見られる。薬剤がかかりにくい部分に生息するため、防除が難しい。外部から持ち込まないように注意する。

### エ その他

ハダニ類やコナジラミ類等が寄生する。

## 6 調製・出荷

開花数が5号鉢で10輪前後、4.5号鉢以下で5、6輪、7号鉢以上では15輪前後開花した時点で出荷する。

出荷の前には、あらためて枯れ葉や、枯死した葉や蕾を取り除き、また鉢の汚れを拭き取って出荷する。

1トレーの入鉢数は、トレーの規格（5号鉢で5鉢入れの規格が標準）に準ずるが、株の大きさによっては、葉の傷みを避けるため、数を減らす。配色は、各色がまんべんなく入るようにするが、市場によって異なるため、あらかじめ確認をする必要がある。

出荷の1週間前には、施設の温度を下げ、寒さに順化（ハードニング）させる。これにより輸送中の低温による荷傷みの防止や、環境の変化に順応できるようにする。



図6 出荷前の状況

### 参考・引用文献

- 1) 前田茂一、大平民人、長村智司ほか、  
「農業技術体系花卉編10 シクラメン、球根類」 農産漁村文化協会（平成6年）
- 2) 横渡隆、大島誠、坂下健、古口光夫 「鉢物栽培技術マニュアル 2巻」 誠文堂新光社（平成6年）
- 3) 青森県農業研究推進センター「平成9年度 指導奨励事項・指導参考資料等」

# シクラメン(固定種) 栽培ごよみ

月	旬	1年目 (播種、育苗)		2年目 (育苗、出荷)		栽培の要点	摘要																																																															
		生育	作業	生育	作業																																																																	
5	上	パースラム系 播種	パースラム系 発芽始め	パースラム系 発芽始め	パースラム系 発芽始め	<p>1. 作型</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">パースラム種</td> <td colspan="12">Ω ——— 加温 ——— Ω</td> </tr> <tr> <td colspan="12">○○ ——— ◇◇ ———</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">パースラム系</td> <td colspan="12">Ω ——— 加温 ——— Ω</td> </tr> <tr> <td colspan="12">◇◇ ——— □ ———</td> </tr> </table> <p>(注) ○：播種、◇：鉢上げ、□：出荷</p> <p>2. 播種 (200~288穴セルトレー利用)</p> <p>(1) 温度：発芽までは20℃前後、発芽後は13℃以上とする。</p> <p>(2) 水管理：発芽までは暗黒にして乾燥させないように管理する。</p> <p>3. 用土の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期間にわたり物理性が変化することのない用土を用いる。</li> <li>団粒化された土壌をベースにする。比率は土壌4割、腐葉土4割、十和田砂2割、さらに全体量の1割もみがらくんたんを混入。かん水方法により、適宜混合比率を調整する。</li> <li>・緩効性の化成肥料を用土1リットル当たり現物で3~4g程度混入。pHは6.0を目標に矯正する。</li> </ul> <p>4. 鉢上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目は本葉が3枚程度になったとき3号ポットへ定植する。球根の高さが半分程度地表に出るようにする。</li> <li>・2回目はポット内に十分根が回り地上部が充実したときで、5号仕上げ鉢に定植する。植え付けの深さは1回目と同様とする。</li> </ul> <p>5. 定植後の管理</p> <p>(1) 温度：加温温度10℃を目標とするが、生育が遅れ気味の時は15~20℃まで温度を上げる。夏場は30℃以下になるように換気を図る。場合によっては日中寒冷しゃにて遮光をする。</p> <p>(2) かん水：用土表面が乾き始めたら、鉢底から水が出るまでたっぷりとかん水をする。</p> <p>(3) 葉組み：9月頃から株中心部に光をあて新葉や花らしいの生育を促進させるのと、開花時の草姿を整えるために中心部の葉を外側へつまみ出すようにして整える。出荷までに3回以上行う。</p> <p>6. 出荷</p> <p>市場にもよるが、10輪前後開花したときが出荷適期となる。枯れ葉や傷んだ花等を取り除き、鉢の汚れを落として出荷する。5号鉢用トレーに配色を考えて入れるようにする。</p>		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	パースラム種	Ω ——— 加温 ——— Ω												○○ ——— ◇◇ ———												パースラム系	Ω ——— 加温 ——— Ω												◇◇ ——— □ ———												<p>生育期間</p> <p>仕上げ</p> <p>葉組み開始</p> <p>出荷始め</p>
							5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4																																																				
	パースラム種						Ω ——— 加温 ——— Ω																																																															
○○ ——— ◇◇ ———																																																																						
パースラム系	Ω ——— 加温 ——— Ω																																																																					
	◇◇ ——— □ ———																																																																					
中																																																																						
下																																																																						
6	上																																																																					
	中																																																																					
	下																																																																					
7	上																																																																					
	中																																																																					
8	上																																																																					
	中																																																																					
9	上																																																																					
	中																																																																					
10	上																																																																					
	中																																																																					
11	上																																																																					
	中																																																																					
12	上																																																																					
	中																																																																					
1	上																																																																					
	中																																																																					
2	上																																																																					
	中																																																																					
3	上																																																																					
	中																																																																					
4	上																																																																					
	中																																																																					

# シクラメン(F<sub>1</sub>系、ミニチュア種) 栽培ごよみ

月	旬	F <sub>1</sub> 系 (5号鉢)		ミニチュア系 (3号鉢)		栽培の要点	摘要																																																																																																															
		生育	作業	生育	作業																																																																																																																	
1	上	播種				1. 作型																																																																																																																
	中																																																																																																																					
	下																																																																																																																					
2	上	鉢上げ		播種		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td> </tr> <tr> <td>F<sub>1</sub>系</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>◇</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>□</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="11">Ω—加温—</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="11">加温-Ω</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="11">□</td> </tr> <tr> <td>ミニチュア系</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="11">Ω—加温—</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="11">加温-Ω</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="11">□</td> </tr> </table>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	F <sub>1</sub> 系	○	—	—	◇	—	—	—	—	—	—	—	□		Ω—加温—												加温-Ω												□											ミニチュア系														Ω—加温—												加温-Ω												□											<p>(注) ○：播種、◇：鉢上げ、□：出荷</p>
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																																																																				
	F <sub>1</sub> 系						○	—	—	◇	—	—	—	—	—	—	—	□																																																																																																				
	Ω—加温—																																																																																																																					
	加温-Ω																																																																																																																					
	□																																																																																																																					
ミニチュア系																																																																																																																						
	Ω—加温—																																																																																																																					
	加温-Ω																																																																																																																					
	□																																																																																																																					
中																																																																																																																						
下																																																																																																																						
3	上	鉢上げ				2. 播種 (200~288穴セルトレイ利用)																																																																																																																
	中																																																																																																																					
	下																																																																																																																					
4	上	鉢上げ				3. 用土の準備																																																																																																																
	中																																																																																																																					
	下																																																																																																																					
5	上	生育	生育			4. 鉢上げ																																																																																																																
	中																																																																																																																					
	下																																																																																																																					
6	上	生育	生育	鉢上げ (仕上げ)		5. 定植後の管理																																																																																																																
	中																																																																																																																					
	下																																																																																																																					
7	上	仕上げ	生育			6. 出荷																																																																																																																
	中																																																																																																																					
	下																																																																																																																					
8	上	葉組み	葉組み																																																																																																																			
	中																																																																																																																					
	下																																																																																																																					
9	上	葉組み	葉組み																																																																																																																			
	中																																																																																																																					
	下																																																																																																																					
10	上	出荷始め (2月頃まで)	出荷始め (2月頃まで)																																																																																																																			
	中																																																																																																																					
	下																																																																																																																					
11	上	開花	開花																																																																																																																			
	中																																																																																																																					
	下																																																																																																																					
12	上	開花	開花																																																																																																																			
	中																																																																																																																					